

きずな

第37号

平成24年9月25日

10月の予定

- 10月6日 未来創造人材育成講座
- 10月12～18日 おおあみしらさと環境パネル展
- 10月14日 子ども村 青空パーカッション



行ってきました、南房総市 未来創造人材育成講座

9月4日、南房総市に視察見学に行ってきました。南房総市は、7つの町が合併して出来た市で、それぞれの地域が地域づくり協議会として活動をしています。まずは南房総市白浜地域センター（白浜町役場）で、企画部市民協働課の方から、協働のまちづくりと地域を動かすエンジン「7色の地域経営」の取り組みについて説明をお聞きました。午後からは、白浜町の地域づくり協議会きらりの会長さんや、地域支援員の方々の懇談会です。今の活動状況・工

夫されていること、苦勞されていることなどをお話いただきました。

その後、和田町に移動して今建設中の道の駅を見学しました。ここは和田町役場の後地を利用して見学しました。旧役場を取り壊してしまつたら、住民のコミュニティーがとれなくなるのでは？との考えから、住民のための交流の場、住民による運営・雇用の場を造る事で、町の活性化を考えた計画されました。地元でとれた生鮮物を販売、地元産のものを生かしたレストランを整備していく上で、道の駅に申請することを決めたそうです。

まちづくりに対する行政の方の意気込み、住民の皆様のパワーに、参加者全員良い刺激を受けて来ました。これから自分たちで何が出来るか、それぞれの出来ることから始められるように、残り2回の講座で考えられたらいいと思います。

今秋オープン予定の道の駅

大網白里まちづくりサポートセンター

子ども村イベント報告

大網白里子育て支援ネットワーク協議会 主催

9月9日(日) バンブーぱん作りに挑戦しました。
 まだまだ暑さが厳しいので、栗の木の木陰で作業を開始しました。



7人くらいのグループに別れパン生地をこねます。ボールの中には子ども達の手でいっぱいになりながら、みんなで協力しながら生地を作りました。これを発酵させて倍くらいに膨らんだパン生地に、干しぶどうやクルミを混ぜて、竹の節の間に入れふたをして、おき火の上で15分ほどで焼き上がりました。ふたがしっかりしているものは蒸し焼きパンに、隙間が出来たものはうっすらと焼き色がついたパンができあがりしました。そして、お昼に焼きたての熱々パンをおいしくいただきました。



初めて参加された若いお父さんは、リーダーシップを発揮してくれて、子ども達も楽しく参加出来ました。もっと早く知っていれば、いろいろなことに参加出来たのにと、次回からの参加に意欲を示してくれました。

今回は、10月14日(日) 相曽晴日さんの青空パーカッション(3回目)です。

詳細はホームページで確認のうえ、メールにてお申し込み下さい。

子ども村ホームページ

<http://kosodate.machisapo.net/kodomomura.html>

第5回子育てフォーラム

11月18日(日)

13:00~15:00

相曽晴日と古村比呂の
 うたかたるひきかたる
 ~子育て本音トーク

大網白里町立大網小学校
 多目的ホール

入場料 大人 1,000円

小学校4年生~高校生300円

定員 300名(チケット前売り)

託児1人200円 定員20名

(要 申し込み)

癒やし湯でのんびり
 ゆるサロン
 夏の日、のんびりと温
 泉に入ると、暑気払いを
 しようとして、三台の車に
 し、養老溪谷の車に便乗
 湯に出かけた。きました。
 めてこの日初
 にも、参加した
 方も、道中た
 の車の中、中
 のおしゃべり
 りで、すっか
 り打ち解け、
 入る頃には、昔から友
 のようないま、替えは
 すまないうちから、次
 どこへ行くか、おでん
 言葉も出るほど、おで
 その後、お帰るほど、お
 を食べ、帰るほど、お
 寄り、夕飯の食材を多
 さん、夕飯の食材を多
 ったと、夕飯の食材を多
 が、楽しかった。一日を
 ました。楽しかった。一日
 はでも、参加する。ど
 は、でも、参加する。ど
 ぽで行きます。



お世話になっていきます。

毛糸.手芸.生地.化粧品
ぷち・はんず
 大網32-5
 0475-72-0394

安藤正義税理士事務所
 大網白里町仏島91
 0475-72-6188

トップマート大網店
 大網白里町大網84-4
 0475-70-2058

知的障がい者のハンディを乗り越え

元気に働く職場訪問

七月二十五日、全国のチヨーク生産シエア日本一を誇る、日本理化学工業株式会社川崎工場を訪問しました。この会社は、五十年前に障がい者の職場体験を受け入れてから毎年のように障がい者の雇用を続けています。会長の大山泰弘氏に案内していただき、障がい者の雇用について学んで来ました。

大山氏は、障がい者が生きがいを持って働ける環境作り、ハンディを乗り越えるための徹底した製造過程、チームの団結力を高める制度作り、生産管理を徹底したなどのすばらしい功績を挙げられ、障がい者雇用での数々の賞を受賞されています。



職場の皆さんの表情も明るく、環境の良さを感じる事が出来ました。大山氏のお話はとてもわかりやすく、こちらの質問にも丁寧に答えて下さいました。そして働く方の能力にに応じて、労働意欲を喚起出来るようなアイデアに、とても感動し、意義のある職場訪問になりました。

石川 庄六

郷土の歴史 - 10 -

畑から珍しい玩具「泥めんこ」その3 古山 豊 (郷土史研究会会長)

「泥めんこ」とは一体何ぞや！ 難問を解く僅かばかりの資料が手もとにある。市立市川歴史博物館発行の資料集『泥めんこ』(昭和 58 年 3 月)がそれである。わずか 26 頁という小冊子ながら、調査・分析の視点はすぐれ参考になる資料である。そこには 638 点が写真で紹介されている。名称の由来については「素材が粘土であり、これを焼いたものであることからこの名前が生まれたといわれる」とある。別の文献では、享保年間(8代将軍吉宗の頃)頃に登場し発祥地は大坂である。その後、各地に普及し江戸では浅草周辺で製造されていたようだ。



文政 13 (1830) 年に発刊された随筆『嬉遊笑覧』(喜多村信節)にも紹介されている。だんだん説明が難しくなり読者諸君に迷惑をかけていると思うが、今暫くご容赦を！

当時「面模」「面打」「紋打」などの名で呼ばれ、「泥面子」といわれるようになったのは、かなり後の時代になってからである。明治時代に入ると、紙や鉛製のメンコが登場し普及するようになり、「泥めんこ」は次第に姿を消していった。

出土は千葉県内だけでなく、東京や埼玉などでも出土報告がある。江戸浅草が製造拠点であったことに由来しているようだ。浅草は今戸人形(土製人形)の産地としても有名である。子どもの玩具がなぜ畑から発見されるかという難題であるが、五穀豊穡を願っての祭祀説や下肥混入説(土に返す)などが伝えられているが、謎に包まれ確かなことは解っていない。

写真は、「石井車偶庵民俗資料館」所蔵(茂原市)

(次回は最終回)

九月の交流サロン

九十九里の自然を守る会大網白里から、会長の吉田さんと理事の高山さんに来ていただき、普段の活動の事、ウミガメの生態のお話をさせていただきました。

会の発足は十三年前、ウミガメだけでなく、九十九里の自然の保護のために、砂浜をきれいにしようという活動が始まりました。その頃には比べると、いろいろな方



が海岸清掃をしてきていたので、今ではゴミが少なくなってきましたし、ゴミを持ち帰る方も増えて来たとす。ただ、一番悪いのはバーベキューの後だそうで、後始末をせずに帰ってしまう人達がいるという、腹立たしい現実のお話を伺いました。

次にウミガメのお話をいただきました。昨年、津波の影響で、砂浜の様子がいぶ変わってしまった、産卵に

来なくなるのでは？との心配をされた方も多いのではないのでしょうか。今年、産卵ですが、確認の取れたもので十三カ所あったそうです。ただ、温度の関係で全てふ化するわけではな

いそうです。卵からふ化すると、月明かりで光る海を目指して歩きだすそうです。また、まれに波乗り道路の照明に向かって歩き出す亀もいて、資格を持った会員の方が助けてあげることもあるそうです。資格がないと亀に触れられないという事も初めて知りました。等々楽しいお話がいっぱいでした。

ウミガメの大好物はクラゲだそうです。海に漂うスーパールのビニール袋をクラゲと間違えて食べてしまい、消化不良を起こして死んでしまうウミガメがいるそうです。そのためにも海岸をきれいにする必要があります。ゴミはきちんと持ち帰るよう心がけましょう。

九十九里の自然を守る会大網白里の活動日は、十一月十一日十五時、白里海岸南駐車場集合で、海岸清掃を行うそうです。活動に興味を持たれた方は参加してみたらどうでしょうか。

大網白里町には、後世に残したい自然がたくさんあります。みんなを守って行くためにも、交流サロンにいろいろな活動をしている方をお呼びして、知識を共有したいと考えています。

交流サロンは、奇数月の第三土曜日十時～十二時に開催しています。お気軽にご参加下さい。

第3回 九十九里福祉ねつとまつり

11月4日(日)9:00~14:00

大網白里町農村環境改善センター「いずみの里」町内の福祉施設・福祉団体が集まって「知ろう・つながろう・活かしあおう」を合い言葉に福祉まつりを開催します。遊びに来て下さい。

主催 九十九里福祉ねつと

おおあみしらさと環境パネル展

10月12日(金)~18日(木)10時~16時

(初日は13時~、最終日は15時まで)

主催 環境会議おおあみしらさと21



熱中症に気をつけよう④

この夏、熱中症予防声かけプロジェクトに参加して、暑さ対策を呼びかけてきました。「暑いから休んで」の看板を見て「前から気になっていたのに入りそびれてた」といいながら、休憩に寄ってくれた方もいました。

涼しくなりましたが、まだ炎天下での運動により熱中症になる恐れがあります。炎天下での作業などまだまだ注意しなくてはなりませんね。

大網白里まちづくりサポートセンター

大網白里町大網 32-3 TEL/FAX ; 0475-72-8278

http://machisapo.net E-mail:info@machisapo.net